



年頭のご挨拶

会長 三浦 修

明けましておめでとうございます。山口県病院協会会員の皆様、ならびに県内関係機関の皆様方、恙なく新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染のパンデミックが収束した令和5年度の全国8千の病院経営状態は過去最悪でした。病床稼働が上がらず、光熱水道費や食材料費などのコストが上昇したために、令和5年暮れの中央社会保険医療協議会資料によると、一般病院の医業利益率はマイナス10.2%、総損益率はマイナス2.8%に落ち込んだと言われています。加えて令和6年6月からの診療報酬改定も、多くの医療機関にとっては経営上非常に厳しい内容が多々見られました。

現在、国や県で進められている新たな地域医療構想によると、85歳以上の高齢者が増え人口減少がさらに進む2040年以降も、全ての国民・県民が適切な医療・介護を受ける機会を持ち、入院医療ばかりでなく、外来医療や在宅医療、介護との連携など隙間のない医療提供体制を享受することを目指すとしています。従来の地域医療構想により、高度急性期・急性期機能の集約化や不足する回復期への転換が行われ、医療機能の分化・連携への取り組みが進行中ですが、国は取り組みの加速化を図るため、従前の複数医療機関の再編統合を支援する重点支援区域制度に加え、「推進区域」や「モデル推進区域」を選定し、技術的・財政的な支援制度を創設するとしています。

現在、山口県など地方においての医師を中心とした人材確保は非常に困難な状況であり、以前の大学の医局に依存した形での若い医師の派遣は、特に中小病院にとっては非常に高いハードルとなっています。若い医師達にとってのワークライフバランスは、医療機関において診療に取り組む比重以上に大きな要素であり、家庭での種々のイベント、出産、育児、最良の教育などの機会を失うことがない職場環境、地域環境を望んでいます。引き続き、先進的産業の誘致やイノベーションの積み重ねで、山口県としての付加価値やブランド力を高め、人が集まり活性化した魅力ある県づくりや街づくりが強く望まれます。

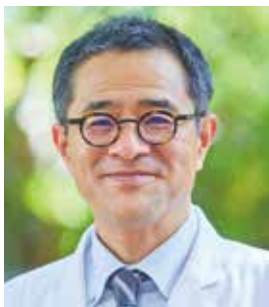
昨年、新年早々甚大な災害や事故が起こり、また国内外も異常気象のために、干ばつや集中豪雨などの被害を繰り返す目にしてきました。医療機関としても、規模と役割に応じて起こり得る様々な災害に対してのBCP(病院機能存続計画)を立て、有事において実行していく組織づくりが必要です。今年が、皆様にとりまして、平穏で安心して医療に専念できる年であるよう願って止みません。本年もよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
医療経営講習会報告	6 ページ
部会コーナー	6 ページ
トピックスコーナー	7 ページ
諸会議報告	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

年頭所感

～持続可能な地域医療の実現に向けて～



山口大学医学部附属病院
病院長

松永 和人

新年明けましておめでとうございます。皆様方には健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より、山口県病院協会の皆様には診療、教育、研究全般にわたり格別のご指導とご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、大学病院では経営環境が厳しい中、働き方改革に伴う医師の労働時間適正化の推進と教育・研究・診療・医師派遣という役割・機能の維持を両立することが求められています。山口大学医学部附属病院では働き方改革を見据えた新たな風土の醸成を目指し、患者、職員、学生、未来、社会に対する病院の責任と使命をテーマとして理念と基本方針を刷新しました。全職員により策定された理念は、『一人ひとりの健康と安心の探求と実現』であり、職員に対する方針として掲げられた『個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る』には、働きがいのある病院風土を築いていくとのメッセージが込められています。

未来の地域医療を支える人材を確保し、育成していくことは大学病院の重要な使命です。医療従事者の定着に向けたキャリア形成の支援体制を強化します。県内での就労や研究を希望する医師や自治医科大学卒業の医師を支援する相談窓口（YUMEDr）を開設しました。下部QRコードから閲覧いただけます。

県内の医療機関との連携を強化しながら、卒前から卒後にいたるシームレスな臨床教育と社会人教育を進め、地域医療を支える人材の確保に努めます。また、研究コア時間の増加を目指した研究者の支援体制を推進します。仕事と生活の調和を重視しながら、研究や高度な技能修得、学び直し等の多様な自己研鑽を支援し、誰もが主体的に夢への挑戦を実現できる環境を整備していきます。キャリア形成を支援する教育と働き方を充実することで、「誰もが働きやすい、働き続けたい病院」と実感してもらえるように職員の満足度を高め、医療人の確保と定着を図ります。医療需要の変化や領域横断的な診療機能の強化を見据えながら、持続可能な地域医療の実現に繋げていく柔軟で未来志向型の改革に取り組みます。

特定機能病院である本院の使命は、県内医療における"最後の砦"を務め、地域医療の「安心」と「未来」を育むことです。その実現のためには、「安心・安全でより良い医療を提供し続けること」が最も大切です。患者中心で良質な医療の基盤となる安全の確保をすべての職員が担うことで、患者（家族）の満足度を向上し、地域からの信頼と期待を得られるように努めて参ります。未来に向けて歩を進めていくためには、皆様からの率直なご意見が必要です。今後とも、温かいご指導とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



医療人育成センター
地域医療支援部門HP



協会役員コーナー

安心して暮らせる地域社会へ



独立行政法人
地域医療機能推進機構
徳山中央病院
病院長

沼 文隆

あけましておめでとうございます。この稿を書いているときに石破新内閣が誕生し、就任からわずか8日での衆議院解散総選挙となり、自公は大敗し過半数割れしました。アメリカの大統領選挙ではドナルド・トランプ氏が返り咲き、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとハマスの戦闘から拡大した中東の緊迫、南シナ海における中国の威圧的行動、沖縄県尖閣諸島周辺での領海侵入等、世界情勢は混沌としています。また、近年の気候変動は凄まじく記録的な猛暑や自然災害が続いています。この会報が届くころには一体どのような世の中になっているのでしょうか？

一方、国内においてもオレオレ詐欺、うそ電話詐欺、闇バイト、トクリュウ（匿名・流動）型緊縛強盗傷害、車の窃盗等が横行し、物騒な世の中になりました。立派な躯幹の若者がひ弱な老人に容赦なく危害を加え、強盗を働くようになった日本。犯罪を犯すものの中には学生も含まれています。昔の日本人の感覚からすると考えられません。実行役の若者の多くは、指示役に弱みを握られた究極の捨て駒ともいわれています。早急な指示役の摘発を望むところです。

安心して人々が暮らしていくために治安は最重要課題の一つです。超高齢化社会に向かう中、関係各機関には治安の維持を徹底して頂きたい。また当然のことながら医療福祉の充実が必要不可欠です。JCHOの理念は地域の住民の皆様、行政、関係機関と連携し地域医療の改革を進め安心して暮らせる地域づくりに貢献していくことであります。当院は現在災害拠点としての機能充実も図るべく新棟建設中です。高度急性期・急性期医療と安全で質の高い専門医療を地域社会に提供し、安心した街づくりに少しでも寄与できるように職員一同切磋琢磨してまいります。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

年頭雑感 ～ノーベル賞とAI～



医療法人社団
宇部中央病院
理事長・病院長

西崎 隆文

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨今、人工知能（AI）の発展はめざましく、ノーベル賞にも大きな影響を与えています。2021年の物理学賞は、気候変動にコンピュータシミュレーションを導入した研究でしたし、昨年の物理学賞・化学賞はそれぞれ、機械学習やタンパク質の設計などのAI技術それ自体が受賞の対象になりました。医学生理学部門でもAI技術が席卷する日も遠くないでしょう。もしかするとノーベル賞設立の趣旨を学習したAIが、受賞者選定にも貢献するようになるかもしれません。

40年前の学生時代にカリフォルニア州サンノゼで1ヶ月間のホームステイを経験しました。サンフランシスコから車で1.5時間、のどかで治安の良い田舎町で、半導体の最先端の研究・製造が行われていたことすら知りませんでした。その地シリコンバレーが経済のみならずノーベル賞など科学分野でも大きな影響力を持つようになったことにただ驚くばかりです。

科学技術の進歩が人類に多大な恩恵を与えていることは事実ですが、AIは軍事作戦などにも利用されていることも忘れてはなりません。ダイナマイトを発明したノーベルが、死の商人というレッテルを払拭したいという思いから作った平和賞に昨年、日本被団協が選ばれました。AI活用に際しての安全確保のためのルール整備を含め、ノーベル平和賞に値するようなAIの発展を願います。同時に、医療従事者として、AIと共存しながら技術と心を磨きたいと年頭に思います。

病院スタッフコーナー

地域のニーズに合わせた支援を



医療法人玖玉会
玖珂中央病院
地域連携室
社会福祉士

星本 絵里香

新年あけましておめでとうございます。

当院は岩国市玖珂町に昭和57年に設立された、現在療養病床148床の病院です。

令和6年3月SAITO MEDICAL GROUPに事業承継され、新体制のもと、令和6年8月より新たに看護部長を室長とした地域連携室が設立されました。私たちは、社会福祉士として、入退院支援や、医療機関・地域との連携の窓口としての役割を担っています。新設部署なので手探りの部分も多いですが、院内のスタッフに対しては、私たちの役割を知ってもらうことと、円滑な連絡調整を行うために、顔を合わせてコミュニケーションをとることを大切にしています。患者様やご家族様に対しては、真心をこめて、誠心誠意対応することを大切に、気持ちに寄り添って支援させていただきます。

岩国市の高齢化率は、全国平均の29.1%を大きく上回る35.0%となっています。高齢化に伴い、ご家族様が遠方で支援の難しい方や、全く身寄りのない方の相談も増加傾向にあります。しかし、成年後見制度等、公的サービス利用の必要があっても、手続きの複雑さや、費用の負担、支援決定までにかかなりの時間を要する事から、ハードルの高さを日々痛感しています。しかし、そうした患者様にも安心して適切な医療が提供されるように、地域包括支援センターや、行政機関等と連携を図りながら、誠心誠意の対応とお受け入れを行っています。今後も、皆様のお声を頂きながら、地域に求められる当院の役割を全うしていきたいと思っております。

逆紹介促進による地域連携の強化



独立行政法人
地域医療機能推進機構
徳山中央病院
医療社会事業専門員

奥谷 健悟

新年おめでとうございます。

当院は、周南市にある高度急性期、急性期医療を担う519床からなる基幹病院です。現在、災害時も地域の医療を守る、災害に強い病院を目指すべく新棟建設工事に着工しています。

私は現在、地域連携室で医療社会事業専門員として7年間業務に携わっています。前職では、急性期・回復期機能に特化した医療機関に、管理職の立場から医療福祉サービスに係るマネジメント業務に従事しました。そうした経験を活かし、地域にとって医療福祉サービスの切れ目ない連携、及び地域の一拠点として貢献できる方法を日々模索しています。

地域連携業務として、当院は地域医療支援病院の承認を受けていますが、協力医療機関の登録情報が長年整理されていないなどの課題があり、地域連携室主体でさらなる逆紹介促進に取り組みました。令和6年度より新たに地域連携システムを導入し、山口県東部の全医療機関、歯科医院へ協力医の登録についてご案内し、現在291施設の協力医に登録いただくことで、リアルタイムに協力医の情報が提供できるようになりました。

そして、協力医の受け入れ可能な診療内容を登録いただくことで、患者さんにとっても最新の協力医の医療情報を把握できることにより、安心してかかりつけ医に受療していただいています。

今後も地域医療を担う医療機関として、紹介受け入れ及び逆紹介を推進することにより病病連携・病診連携を強化し、地域医療に貢献していきたいと考えています。

病院スタッフコーナー

顔の見える研修会を開催して



社会福祉法人恩賜財団
済生会支部
山口県済生会山口総合病院
患者サポートセンター
副師長

田島 ゆかり

新年あけましておめでとうございます。

当院は山口市の中心部に位置し、山口・防府医療圏の二次救急を担う急性期病院です。県内外から幅広く患者を受け入れ、急性期医療を提供しています。胸部心臓血管外科・急性心筋梗塞においては24時間365日受け入れを行い、地域医療支援病院として地域の皆様へ安心を提供し信頼される病院を目指しています。

私の所属する患者サポートセンターは、病院の窓口として院内外と連携を繋ぐ重要な役割を担っています。地域の皆様と顔の見える関係作りを大切に、多職種で患者、家族に寄り添える入退院支援の機能強化に取り組んでいます。

新型コロナが5類へ移行後の2023年度からは、研修会を本格的に対面式で再開しました。地域の様々な施設の方と院内の退院支援に関わる職員が集まり、事例検討やグループワークを実施しています。地域の方々の抱える様々な問題点や現状について、率直でストレートな意見を出し合い、言葉のキャッチボールができる貴重な時間と感じています。

そして、当院での患者、家族、地域の方との関わり方などを振り返り、連携体制を見直すヒントに繋がっています。今後も継続して研修会を開催し、壁のない関係性の構築に努めていきたいと思っています。

「これからもずっとこの場所で皆様に愛される病院を目指して」2027年8月新病棟完成に向け職員皆が一丸となって頑張っています。適切な医療が適切な場所で、退院後も切れ目のない支援が受けられる環境を提供していきたいと思っています。

お互いを思いやる人間関係を大切に



地方独立行政法人
山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター
地域連携室主任
公認心理師

米田 一実

新年、あけましておめでとうございます。

当院は、宇部市にある精神科単科の病院です。「県民の心の健康を支える質の高い医療の提供」を理念とし、急性期を中心に地域社会と連携しながら患者さんの社会復帰を促進する精神科医療の実践に努めております。

私は今年度より医療相談室に所属しています。医療相談室では、外来や入退院支援促進、県から委託を受けた3つの事業（認知症疾患医療センター、高次脳機能障害支援センター、若年性認知症支援相談窓口）を担当しています。相談業務のほかに、研修会や会議の開催、もの忘れ外来、高次脳機能外来に係る業務があります。日々慌ただしく過ぎていきますが、皆で協力しながら取り組んでいます。

公認心理師として、昨年度までカウンセリングや心理検査を数多く担当してきました。

特にカウンセリングを通して、「心身ともに健康であるためにはお互いを思いやる人間関係が何より重要」と実感するようになりました。心身の不調が生じたとき、気にかけてくれる人がいるか、誰がどんなふうに関わってくれるかが人生を左右することを学びました。

患者さんへの対応時に留意することはもちろんですが、私たち医療者が働く場においても同じことが言えると思います。院内における多職種連携、院外の関係機関の皆様との連携、いずれにおいても良好な関係がなければ、患者さんに良い支援を行うことはできないと思います。このことを肝に銘じ、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

医療経営講習会報告

令和6年度 冬期医療経営講習会

令和6年12月17日(火)、冬期医療経営講習会が山口グランドホテルにて開催された。講師には日本病院会島副会長をお招きし、47名が参加した。

テーマ 「令和6年診療報酬改定の影響とVUCAの時代の病院経営」

講師 一般社団法人日本病院会
副会長 島 弘志 氏



島 弘志 副会長



講習会風景

部会コーナー

令和6年度 山口県病院協会事務長部会 総会および第1回研修会

令和6年10月24日(木)、山口グランドホテルにおいて、令和6年度山口県病院協会事務長部会の総会および第1回研修会が開催され、47名の参加があった。

総会では役員の変動による補充選任が報告された。常任幹事名簿と研修会のテーマについては以下の通り。

【総会】

議題1 事務長部会役員の変動による補充選任について

部会長	嶋崎 隆郎	(都志見病院 事務長)
副部会長	橋本 雅徳	(周南記念病院 事務局長)
副部会長	室田 義文	(尾中病院 法人本部長)
常任幹事	西原 寛之	(周東総合病院 事務長)
常任幹事	藤部 恭史	(小郡第一総合病院 事務長)
常任幹事	石田 憲司	(下関リハビリテーション病院 事務長)



菊地 麻奈美 氏

【研修会】

演題 「より良い職場環境づくりへのヒント」

講師 東京海上日動メディカルサービス株式会社
ヘルスケア本部 メンタルヘルス事業部担当部長
兼 人事総務部担当部長
菊地 麻奈美 氏



研修会風景

トピックスコーナー

令和7年1月1日施行 労働者死傷病報告の電子申請義務化について

○令和7年1月1日以降に報告受付となる労働者死傷病報告について、電子申請による報告が義務付けられます

令和6年12月31日以前に発生した労働災害についても、1月1日以降の報告受付分から適用となります。



説明サイト

○「帳票入力支援サービス」の活用で作成が簡単！

厚生労働省では、労働者死傷病報告等の作成をサポートする「帳票入力支援サービス」をご用意しております。労働者死傷病報告を所轄労働基準監督署に報告する際は、ご利用ください。



帳票入力支援サービス

諸会議報告

令和6年度 第2回理事会

日時 令和6年10月3日（木）16:00～17:00

開催場所 セントコア山口

【承認事項】

1. 参与への慰労金支給について
2. 各種後援等の依頼について
 - ・「医療ガス安全講習会」ご後援名義使用ご許可のお願い
 - ・第21回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
 - ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024やまぐちのご後援について
 - ・「循環器病対策県民フォーラム・やまぐち健康生活フォーラム（やまぐち健康経営フォローアップ講習会）」の開催における共催について
 - ・日本医療マネジメント学会 第23回山口県支部学術集会後援のお願い

【協議事項】

1. 冬期医療経営講習会について
2. 第28回四県病院協会連絡協議会（福岡）の提案議題について
3. 令和7年度定時総会の開催日について

【報告事項】

1. 事務長部会総会および第1回研修会について
2. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療審議会委員
会長 三浦 修（再任）
 - ・山口県死因究明等推進協議会委員
副会長 馬場 良和（再任）

・山口県がん対策協議会委員・がん登録部会委員
理事 藤岡 顕太郎（再任）

3. 県各種委員会等の経過報告について

神徳副会長

・令和6年度第1回山口県感染症対策連携協議会
(9月10日)

・令和6年度第1回山口県在宅医療推進協議会
(9月13日)

西田常任理事

・令和6年度山口県公衆衛生協会第1回理事会・
評議員会 (7月4日)

【その他】

・新年互礼会の開催予定について、ほか

令和6年度 正・副会長、顧問会議

日時 令和6年11月5日（火）18:00～18:30

開催場所 山口グランドホテル

【議 題】

1. 令和7年度山口県病院協会役員改選について
2. その他

令和6年度 第3回情報管理委員会

日時 令和6年12月6日（金）15:30～16:30

開催方式 Zoom開催

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

令和6年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、今年度は次の病院に決定し、10月17日に山口県庁において伝達されました。おめでとうございます。

山口県済生会下関総合病院（病院長 森 健治）



山口県庁にて（前列右が森病院長）

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|-------------|----------------------|
| ○ 1月11日 | 医療関係団体新年互礼会 | （会場：かめ福オンプレイス） |
| ○ 1月15日 | 第3回理事会 | （会場：山口グランドホテル） |
| ○ 1月24日 | 四県病院協会連絡協議会 | （会場：ANAクラウンプラザホテル福岡） |
| ○ 2月7日 | 山口県医師会との懇談会 | （会場：福助） |
| ○ 2月中旬 | 第1回総務委員会 | （会場：未定） |
| ○ 3月上旬 | 第4回情報管理委員会 | （会場：Web開催） |
| ○ 3月中旬 | 第4回理事会 | （会場：未定） |



編集後記

◆遂に、2025年が到来しました。働き方改革やDX関連で、医療界もAIの活用が叫ばれています。相当誘導される（服従させられる？）であろうと想像します。この先、万が一生ずるAIによる不具合を、訂正できる勇気があるかどうか、心配になります◆我々病院としましては、次の地域医療構想について、2040年を想定と説かれているところ、AIにおかれましては、2045年にシンギュラリティ（技術的特異点）をお迎えになるとも言われています。どんどんやってきます。
（西田 一也）